

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校
設置者名	独立行政法人国立病院機構理事長 新木 一弘

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
看護専門課程 (三年課程)	看護学科	夜・通信	9単位	9単位	
		夜・通信			
看護専門課程	助産学科	夜・通信	3単位	3単位	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>【看護学科】 https://okayama.hosp.go.jp/gakko/images/02/03_curriculum_k/jitsumuken_k.pdf</p> <p>【助産学科】 https://okayama.hosp.go.jp/gakko/images/02/03_curriculum_j/keiken_j.pdf?202406</p>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校
設置者名	独立行政法人国立病院機構理事長 新木 一弘

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校運営会議
役割	<p>学校運営の円滑化及び適正化を図るために、学則に基づき学校運営会議を設置している。</p> <p>(審議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 学校の規程の制定改廃 二 学校予算の執行計画 三 教育課程の編成に関する事項 四 各年度の教育計画に関する事項 五 学校の講師、実習施設選定に関する事項 六 学生募集および入学に関する事項 七 学生の単位、卒業認定に関する事項 八 学生の休学、復学、退学に関する事項 九 転入学者の既習単位等の認定に関する事項 十 学生の就職に関する事項 十一 学校運営の評価に関する事項 十二 学校の施設整備に関する事項 十三 その他学校の運営に関し重要と認める事項 <p>(外部人材の役割)</p> <p>会議に多様な意見を反映させるために2名の外部委員を任命し、外部委員の自らの経験や役割を活かして、グローバルな視点や社会や産業界のニーズを踏まえた意見を学校運営に反映させることで、更なる学校運営の適正化が図られることを期待する。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
岡山医療センター 統括診療部長	2025. 4. 1 ～2026. 3. 31	学校の研究倫理審査委員
岡山医療センター 臨床研究部長	2025. 4. 1 ～2026. 3. 31	解剖生理学の元講師
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校
設置者名	独立行政法人国立病院機構理事長 新木 一弘

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)は、学生による各科目の授業評価、講師による授業評価、テキストの改訂内容や国家試験の出題基準を振り返り、毎年3月には改訂する。授業計画書(シラバス)には、科目名、時間数、単位数、担当講師名、学年、履修期、授業概要、授業計画、評価方法、テキスト、参考書を記載している。さらに、教育課程進捗計画と共に評価計画を明示する。専任教員に関しては、講師実務経験を記載する。 <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に関する事項を検討するために実習教育向上プロジェクト会議を毎月2～3回開催する。 ・実習要綱は、学生による実習科目ごとの授業評価、教員による実習指導評価、看護技術経験状況等を振り返り改訂する。実習要綱には科目名、実習目的、実習目標、実習内容、行動目標、学習内容、実習評価基準(実習計画、実習要綱、実習指導、実習評価等)について記載する。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧に、履修規程や成績評価の基準(80点以上 優、70から79点 良、60から69点 可、60点未満 不可)について記載する。 ・4月に学生便覧、授業計画書(シラバス)、実習要綱を学生に配布し、履修についての説明を行い、学校ホームページで授業計画書(シラバス)を公表する。 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>【看護学科】</p> <p>https://okayama.hosp.go.jp/gakko/02_intro/02-03_curriculum_k_s.html</p> <p>【助産学科】</p> <p>https://okayama.hosp.go.jp/gakko/02_intro/02-03_curriculum_j_s.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>【授業科目の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目の評価については、科目ごとに筆記試験、レポート、技術試験等の評価方法および点数配分を授業計画書（シラバス）に記載している。 ・ 技術試験においては評価基準を設け、事前に学生に説明し、技術試験の前に教員間で評価の視点について共通理解する会を開催している。技術試験の結果は、評価会議で検討し、客観的な評価を行っている。 ・ 実習においては、実習評価表に評価項目及び評価基準を記載している。評価は教員と臨地実習指導者と協議している。 ・ 入学時や終了試験、実習前オリエンテーションでは、学習内容の位置づけや進級に関する項目について、学生にガイダンスしている。 <p>【単位認定、卒業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位の認定は、学生便覧に記載している学則、学則細則、履修規程に単位認定基準を明示している。3月に学校運営会議を開催し、単位認定を行い、単位の修得状況について学生に通知している。 ・ 卒業は学則、学則細則に卒業の要件、判定について定め、学校運営会議において卒業の認定を行っている。 	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の授業科目の評価及び単位習得の認定については、学則第19条及び学則細則第7条に定めており、出席時間が授業数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受ける資格を失うこと、授業科目の評価は全科目評価を点数化し、優（80点以上）、良（70点から79点）、可（60点から69点）、不可（60点未満）とし、可以上を合格としている。 ・ 更にGPA(Grade Point Average)を導入して、各学年の履修登録科目の成績評価をグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修総単位数で除した値をGPAとする。高等学校の評定平均のように、学業結果を総合的に判断する指標として役立ち、従来の修得単位数という量的な判断に加えて、質的な観点からの判断の材料になると考える。 ・ 令和6年度看護学科のGPA算定に基づく成績評価は別紙のとおりである。 <p>第26期生（第1学年）の下位1/4に該当する人数は12人、及び、下位1/4に該当する指標の数値は2.52点以下を示した。</p> <p>第25期生（第2学年）の下位1/4に該当する人数は15人、及び、下位1/4に該当する指標の数値は2.36点以下を示した。</p> <p>第24期生（第3学年）の下位1/4に該当する人数は19人、及び、下位1/4に該当する指標の数値は2.49点以下を示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助産学科第14期生のGPA算定に基づく成績評価は別紙のとおりである。下位1/4に該当する人数は3人、及び、下位1/4に該当する指標の数値は2.47点以下を示した。 	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://okayama.hosp.go.jp/gakko/02_intro/02-09_gpa.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・卒業については学則第 25 条及び学則細則第 13 条に定めており、学校長は第 18 条に定める授業科目の単位習得の認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定すると定めている。
- ・卒業認定に関する方針をディプロマポリシーとして公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://okayama.hosp.go.jp/gakko/02_intro/02-08_tani.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校
設置者名	独立行政法人国立病院機構理事長 新木 一弘

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://nho.hosp.go.jp/files/000216074.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://nho.hosp.go.jp/files/000216074.pdf
財産目録	
事業報告書	https://nho.hosp.go.jp/files/000216073.pdf
監事による監査報告（書）	https://nho.hosp.go.jp/files/000216074.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		看護専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,030 単位時間/104 単位	1,770 時間 /72 単 位	225 時間/ 9 単位	1,035 時間 /23 単 位	0 時間/ 0 単位	0 時間/ 0 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		173 人	0 人	14 人	129 人	143 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【授業】</p> <p>・授業計画書（シラバス）は、前期と後期に学生による授業評価、講師による授業評価、テキストとの改訂内容や国家試験の出題基準を振り返り、毎年3月には改訂する。授業計画書（シラバス）には、科目名、時間数、単位数、担当講師名、学年、履修期、授業概要、授業計画、評価方法、テキスト、参考書を記載している。さらに、教育課程進度計画と共に評価計画を明示している。</p> <p>【実習】</p> <p>・実習に関する事項（実習計画、実習要綱、実習指導、実習評価等）を検討するために実習教育改善プロジェクト会議を毎月2～3回開催する。</p> <p>・実習要綱は、前期と後期に学生による授業評価、指導者による評価、看護技術経験状況等を振り返り改訂する。実習要綱には、科目名、実習目的、実習目標、実習内容、行動目標、学習内容、実習評価基準を記載する。</p>

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>【授業科目の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の評価については、科目ごとに、筆記試験、レポート、実技試験等の評価方法をおよび点数配分をシラバスに記載している。 ・技術試験においては評価基準を設け、事前に学生に説明し、技術試験の前に教員間で評価の視点について共通理解する会を開催している。実技試験の結果は、評価会議で検討し、客観的な評価を行っている。 ・実習においては、実習評価表に評価項目および評価基準を記載している。評価は、教員と臨床実習指導者と協議している。 ・入学時や終了試験、実習前オリエンテーションでは学習内容の位置づけや進級に関する項目について学生にガイダンスしている。 ・学生便覧に、履修規程や成績評価の基準について記載する。 <p>(80点以上 優、70～79点 良、60～69点 可、60点未満 不可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に学生便覧、授業計画書(シラバス)、実習要綱を学生に配布し、履修についての説明を行い、学校ホームページで授業計画書(シラバス)を公表する。
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>【単位の認定、卒業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位の認定は、学生便覧に記載している学則・学則細則・履修規程に単位認定基準を掲載している。 ・学校運営会議を開催し、単位の認定を行い、単位の修得状況について学生に通知している。 ・卒業は学則・学則細則に卒業の要件、判定について定め、学校運営会議において卒業の認定を行っている。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の新入生ガイダンス、前期と後期でクラス担任による面接 ・前期(7月まで)にカウンセラーによるグループカウンセリング ・長期休業中に過去の国家試験問題の実施と解剖生理学の強化 <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期の早い時期に、クラス担任による面接 ・模擬試験及び国家試験対策の学習会と就職活動について(インターンシップ)の説明 <p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験及び学習会と就職活動支援 ・国家試験対策についてはチューター制をとり、全教員による個別の学習支援 <p>【経済的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本学生支援機構、NH0各施設の奨学金制度、各県の奨学金制度 ・大学等における修学の支援に関する法律による修学支援制度 ・社会人学生に向けての専門実践教育訓練給付金制度 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを1回/2週実施(希望者のみ) ・ハラスメント防止のための取り組み ・学生寮の完備 ・入学前の既修科目認定制度 ・学生生活における傷害事故、賠償責任、実習中の事故に関する保険に加入

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
74人 (100%)	6人 (8.1%)	68人 (91.9%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 看護師（国立病院機構病院、公的病院等）			
(就職指導内容) 【1年次】 ・定期面談実施。3月に中国四国グループ合同就職説明会に参加。 【2年次】 ・就職ガイダンスを行い、面談および病院見学の相談を実施。3月に母体病院の就職説明会に参加。3月に中国四国グループ合同就職説明会に参加。3～4月の放課後、母体病院の看護職員による就職相談会を実施。 【3年次】 ・就職ガイダンス、個別面談、病院見学やインターンシップ等の案内 ・各病院からの募集要項は学生がいつでも見られる1階ロビーに設置し、就職に関する相談は適宜実施。3、4月の放課後、母体病院の看護職員による就職相談会を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
195人	2人	1%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを1回/2週実施（希望者） ・学習困難者に対する学習支援 ・担当の教員による個別面談、学年担当の教員による個別支援		

【助産学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		看護専門課程	助産学科	該当せず	該当せず		
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	960 単位時間／31 単位	340 時間/ 17 単位	125 時間/ 3 単位	495 時間/ 11 単位	0 時間/ 0 単位	0 時間/ 0 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
16 人		16 人	0 人	3 人	32 人	36 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの実施状況について、前期・後期で各科目の内容、方法、進行について評価する。講義終了後に学生による授業評価を行い、次年度の授業計画書(シラバス)、実習要綱を改訂する。授業計画書(シラバス)には、科目名、時間数、単位数、担当講師名、履修時期、授業概要、授業計画、評価計画、テキスト、参考書等を記載する。実習要綱には、科目名、実習目的、実習目標、実習内容、行動目標、学習内容、実習評価基準を記載する。 4月に学生便覧、授業計画書(シラバス)、実習要綱を各学生に配布し、履修についての説明を行っている。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業科目の評価は科目毎に筆記試験、実技試験などの評価方法及び点数配分を授業計画書(シラバス)の評価計画に明示している。評価基準は学生便覧にも記載しており、履修規程や成績評価の基準について記載する。 <p>(80 点以上 優、70～79 点 良、60～69 点 可、60 点未満 不可)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位の認定は、学生便覧に記載している学則、学則細則、履修規程に単位認定基準を掲載している。学校運営会議を開催し、単位の認定を行い、単位の修得状況について学生に通知している。 卒業は学則、学則細則に卒業の要件、判定について定め、学校運営会議において卒業の認定を行っている。
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学時の新入生ガイダンス、全学生に担当教員による面接及び進路相談の実施 学習困難者、希望者に対する学習支援 助産師国家試験対策として、模擬試験、解説学習会、個別学習支援の実施 <p>【経済的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人日本学生支援機構、NHO 各施設の奨学金制度、母体病院の奨学金制度 大学等における修学の支援に関する法律による修学支援制度 社会人学生に向けての専門実践教育訓練給付金制度

<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを1回/2週実施(希望者) ・ハラスメント防止のための取り組み ・寮の完備 ・入学前の既修科目認定制度 ・学生生活における傷害事故、賠償責任、実習中の事故に関する保険に加入
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	15人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 助産師(国立病院機構病院、公的病院等)			
(就職指導内容) ・就職ガイダンス、個別面談、病院見学やインターンシップ等の案内を行っている。 ・各病院からの募集要項は学生がいつでも見られる図書室に設置し、就職に関する相談は適宜実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 助産師国家試験受験資格、受胎調節実地指導員認定講習修了証の授与、新生児蘇生法(Aコース)修了認定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを週1回実施(希望者) ・学習困難者に対する学習支援 ・担当の教員による個別面談、教員による個別支援		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科	200,000 円	500,000 円	100,000 円	
助産学科	350,000 円	550,000 円	500,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://okayama.hosp.go.jp/gakko/images/02/07_tokutyo/jikohyoka_2024kj.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>学校相互評価実施規程並びに全国国立病院附属看護学校副学校長教育主事協議会中国四国支部規程に基づき、教育の質の向上及び学校経営の維持・安定化を図るために学校相互評価を3年に1回実施している。国立病院機構の学校管理者および国立病院機構以外の学校管理者を評価者に入れている。実施内容は以下のとおりである。①教員による、自己点検自己評価(「教育理念・教育目的」「教育目標」「教育課程経営」「教授・学習・評価過程」「経営・管理過程」「入学」「卒業・就職・進学」「地域社会/国際交流」「研究」)結果について、前回実施結果と比較分析 ②学生による学校評価を前年度と比較検討 ③国立病院機構附属看護師養成所間の相互評価を実施している。</p> <p>学校関係者評価委員会では評価結果(①～③)を報告し、意見を伺う。さらに、学校運営会議で報告・検討し、課題を抽出して、PDCAにより改善を目指している。</p> <p>2024年度は、2023年度の学校関係者評価委員会での評価結果から、継続課題は4点で、①講師との情報交換・気付きや学習状況のタイムリーな情報共有と対応、②老朽化や故障中の教材・教具の計画的更新、③広報活動の充実、④勤務時間内で授業準備ができる工夫・中国四国支部独自のGoogle classroomの活用促進であった。また新規課題は5点で、①電子テキスト活用の評価、②協議会の共通システム(Google classroom)の活用、③臨地実習におけるルーブリック評価表の作成、④NHO助産学科併設校3校の教員による研究授業リフレクション、⑤学生寮における防災避難訓練について取り組んだ。</p> <p>2024年度学校関係者評価委員会を2025年3月18日に開催し、教員による自己点検自己評価結果についての前回実施結果と比較分析、学生による学校評価を前年度と比較検討し、課題4点について意見をいただいた。評価結果を2025年5月にホームページ上に公開した。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
病院看護部長	2025. 4. 1 ～2026. 3. 31	看護管理者

看護専門学校 副学校長	2025. 4. 1 ～2026. 3. 31	教育に知見のある者
同窓会会長	2025. 4. 1 ～2026. 3. 31	卒業生
会社員	2025. 4. 1 ～2026. 3. 31	卒業生の保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://okayama.hosp.go.jp/gakko/02_intro/02-13_hyoukaiinkai.pdf?20250514		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://okayama.hosp.go.jp/gakko/index.html
--